

### 今年、インスリン発見から 100 周年

11 月 14 日「世界糖尿病デー」に合わせて、病院を **ブルー** にライトアップ

「世界糖尿病デー」は、インスリンを発見したバンティング博士の誕生日で、世界に広がる糖尿病の脅威に対応するために 1991 年に制定されました。このインスリンの発見により、糖尿病治療は飛躍的な進歩をとげました。

2021 年はインスリン発見から 100 年目の記念すべき年になります。今年も、世界中で世界糖尿病デーのシンボルである「ブルーサークル」を用いて、糖尿病の抑制に向けたキャンペーンが行われています。また、日本では、11 月 14 日(日)を含む 1 週間を「全国糖尿病週間」として、全国各地で広報活動などを実施しています。

当院でも、糖尿病の正しい理解の普及のために、病院玄関を **ブルー** にライトアップします。



world diabetes day  
14 November

【場 所】 聖隷浜松病院 玄関

【期 間】 11 月 8 日(月)から 11 月 14 日(日)

【点灯時間】 17 時から 21 時

取材希望時間 17 時 30 分すぎから 18 時頃

18 時以降が、周りが暗くなりライトアップが映えます



過去のライトアップの様子

### 「世界の糖尿病人口は4億6,300万人 糖尿病には正しい理解が必要」

世界の糖尿病人口は4億6,300万人に上っています(2019年時点)。2016年に実施された糖尿病実態調査によると、日本には約1000万の「糖尿病が強く疑われる人」が存在します。さらに、「糖尿病の可能性を否定できない人」も約1,000万人おり、合計で総人口の15%を超える約2,000万人の糖尿病患者および予備群がいると推定されています。医療機関や健診で糖尿病といわれたことのある人の中で、「治療を受けていない」人の割合は、特に男性の40～49歳の働き盛り世代で最も高く、約5割が未受診または治療中断という状況です。(世界糖尿病デー実行委員会HPより)

糖尿病は生活習慣病の代表であり、食事・運動など生活習慣の改善が大切です。当院では、正しい知識を身につけて自己管理ができるように、医師と糖尿病療養指導士・専門スタッフからなる糖尿病サポートチームが外来糖尿病教室・糖尿病教育入院・透析予防指導などの診療を行っています。

近年、糖尿病は治療が飛躍的に向上し、普通の人と変わらない一生を送ることができる病気になりました。しかし、糖尿病について何も知らない人たちからの誤解や偏見のために、就学や就職、結婚、マイホームの夢を絶たれる人がいます。病気のことがいえずに無理をしながら生活していたり、糖尿病治療に前向きになれない人がいます。「私は糖尿病とは無関係だから・・・」ではなく、糖尿病にはあなたの正しい理解が必要です。糖尿病とともに生きる人の可能性や未来を偏見で摘み取らない社会作りに一緒に取り組みましょう。

是非、貴社にてご紹介いただければ幸いに存じます。貴紙で取り上げていただけるようでしたら、

予め下記連絡先までご一報いただけましたら幸いです。よろしくお願いたします。

【問い合わせ先】聖隷浜松病院 学術広報室 北岡、太田、望月 TEL053-474-2753・FAX053-474-2763